

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

## 【事例概要について】

|                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別  | 事故事例   |
| 2. 体験した事例の名称    | 火災現場において、建物二階部分から屋内進入時における、破壊器具弁慶による負傷。      |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 腰にさげていた弁慶が屋内進入時に姿勢を低くした際、左下腿に弁慶バール部分が刺さったもの。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 破壊器具弁慶の誤った携行方法。 開口部の設定時における注意力不足。            |

### 【体験した事例の直接的原因について】

|                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 行動の意志決定に問題があった。行動の実行に問題があった。 |
|------------------|------------------------------|

### 【体験した事例について】

|                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 発生日時                          | 平成 17 年 5 月 19 日 午後 5 時頃 |
| 2. 発生した当時の天候                     | 晴                        |
| 3. 発生した活動現場                      | 屋外：一般住宅建物二階ベランダ          |
| 4. 体験した事例の種類                     | 回答者が、自分自身で負傷した。          |
| 5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）  | 軽傷の怪我                    |
| 6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）     | その他：挫創                   |
| 7. 事例体験時の活動                      | 火災、木造建物 [ 現場活動初期、 ]      |
| 8. (7の活動中)<br>どのような作業中に発生したか     | 破壊活動、進入、開口部の設定及び解放、      |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した。                 |

#### 10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

|                        |   |
|------------------------|---|
| ○当事者 A                 | 年齢[ 27 ]歳、 勤続年数[ 3 ]年、 現場経験年数[ 3 ] 年、 階級[ 消防士 ]、<br>同様の活動 [ 1年に数度 ]、 任務 [ ] |
| ○当事者 B                 | 年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、<br>同様の活動 [ ]、 任務 [ ]                   |
| ○当事者 C                 | 年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、<br>同様の活動 [ ]、 任務 [ ]                   |
| その他<br>(当事者が 4 人以上の場合) |   |

## 11. 事例発生の経過。

|       | 誰(何)が | なにをした                      | その他・備考など    |
|-------|-------|----------------------------|-------------|
| 経過 1  | A     | 現場到着。                      |             |
| 経過 2  | A     | 架梯された三連はしごを登梯。             | 弁慶を腰にさげ、携行。 |
| 経過 3  | A     | 建物二階ベランダに到着。               |             |
| 経過 4  | A     | 雨戸をはずし、炎からの熱気を避けるため身をかがめる。 | 負傷。         |
| 経過 5  |       |                            |             |
| 経過 6  |       |                            |             |
| 経過 7  |       |                            |             |
| 経過 8  |       |                            |             |
| 経過 9  |       |                            |             |
| 経過 10 |       |                            |             |

#### 【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。個人装備が不適切だった。指揮者が適切に指示しなかった。

## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
  - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
  - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 はい
  - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 いいえ
  - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。     | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい  |
| ・活動に対する経験が不足していた。          | はい  |

d. 心身の不調があった

|           |     |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。   | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | はい  |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。  | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。       | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。      | はい  |
| ・暑かった（寒かった）。     | いいえ |
| ・野次馬が多かった。       | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

|                   |     |
|-------------------|-----|
| ・足元が躊躇したり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。    | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）           | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。                    | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

|                |     |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。    | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

|     |
|-----|
| いいえ |
|-----|

## 【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

### ○注意力欠如、焦り等の対策について

事故後、負傷事例を検証し、集中力の向上が図られた。

### ○装備・資機材の対策について

機器取扱訓練の実施時において、利点だけではなく、資機材そのものの注意事項や起こりうる危険性においても、検証している。

### ○活動環境の対策について

消防隊、救助隊及び救急隊との連携訓練を実施し、危険予知対応能力の向上を図っている。

### ○指揮・情報伝達の対策について